

●保護者アンケートの調査結果概要

・アンケート実施期間：令和5年2月17日から令和5年3月2日まで（14日間）

(1) 保護者からの回答状況

アンケート対象者	回答件数／アンケート対象者数	回答率
山王小就学児の保護者 ※1	275件／551件	49.90%
未就学児の保護者 ※2	262件／994件	26.40%
全体	537件／1545件	34.76%

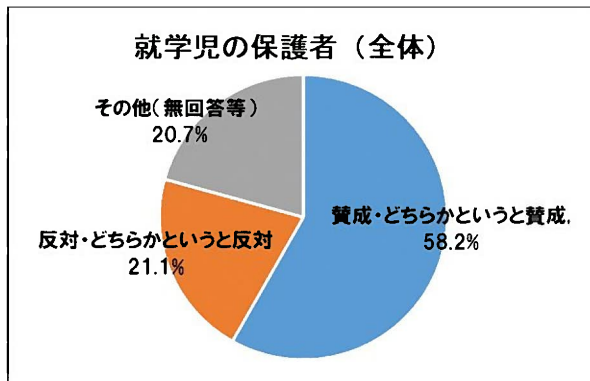
※1 山王小に通学している第1学年～第4学年の保護者

※2 山王小通学区域内に住民登録している0歳～5歳の子どもの保護者

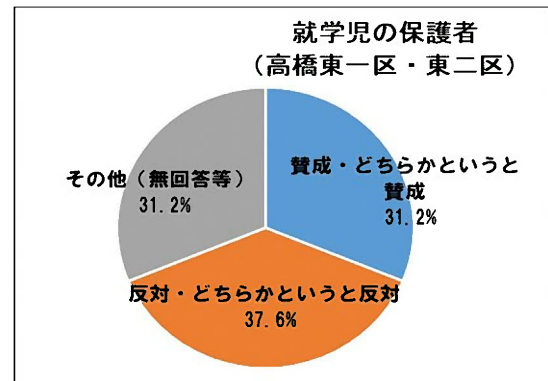
(2) 「山王小の通学区域を改編すること」についての賛否意見

回答率34.7%（537人/1,545人）

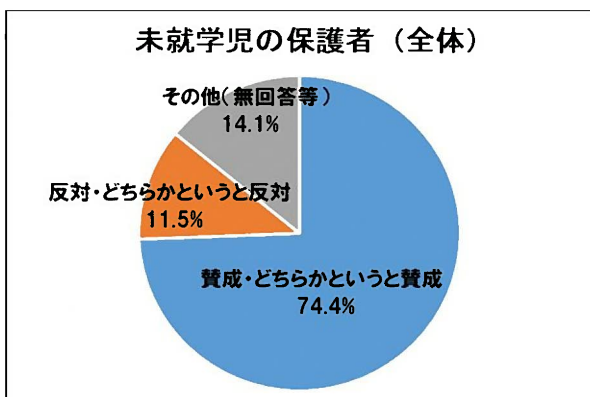
①就学児（学区全体）



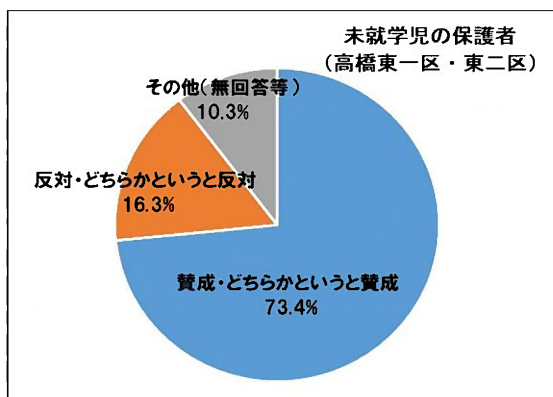
②就学児（高橋東一区・東二区）



③未就学児（学区全体）



④未就学児（高橋東一区・東二区）



(2) の結果概要

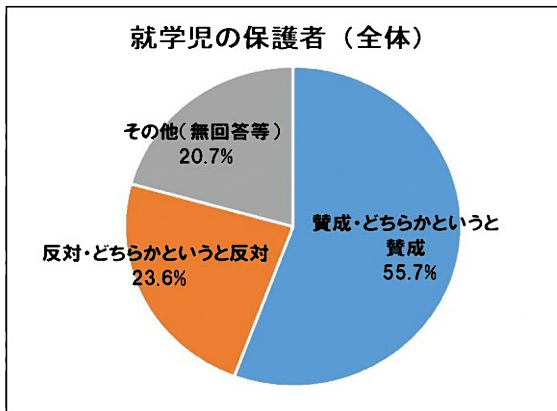
『通学区域の改編を行うこと』の賛否について

- ・ 就学児(①学区全体)では6割近い保護者が賛意を示した。
- ・ 就学児(②高橋東一区・東二区)は「賛成」「反対」「無回答」の回答数が拮抗した。
- ・ 未就学児では、(③学区全体)及び(④高橋東一区・東二区)ともに、7割を超える保護者が「賛成・どちらかという賛成」と回答した。

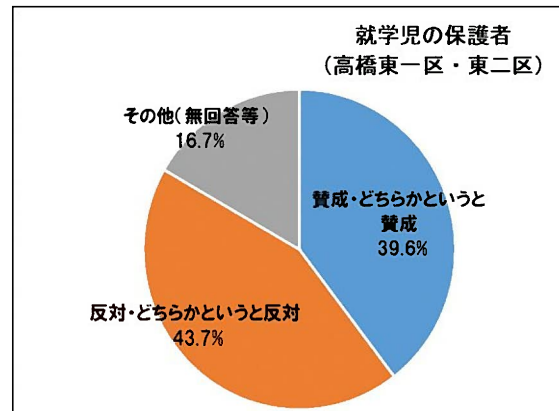
(3)「高橋地区の通学先を多賀城八幡小に変更すること」についての賛否意見

回答率34.7% (537人/1545人)

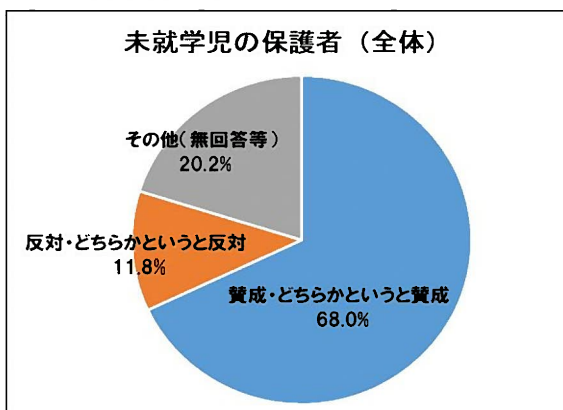
①就学児（学区全体）



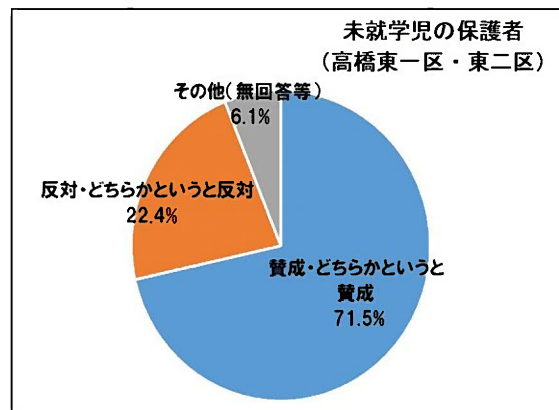
②就学児（高橋東一区・東二区）



③未就学児（学区全体）



④未就学児（高橋東一区・東二区）



(3)の結果概要

「高橋地区の通学先を多賀城八幡小に変更すること」の賛否について

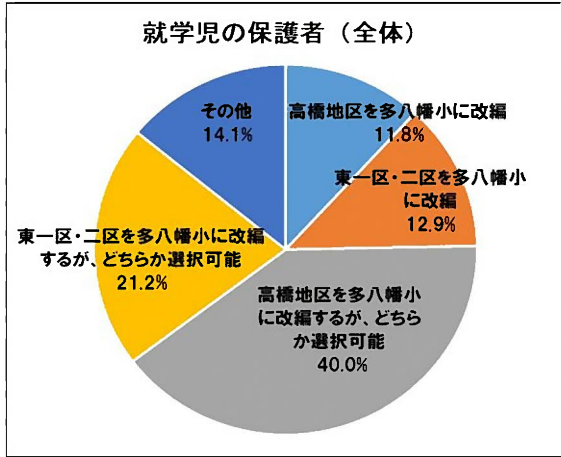
- ・ 就学児の(①学区全体)では、賛意を示す保護者が半数を超えたが、就学児の(②高橋東一区・東二区)は、「賛成」と「反対」の回答数が拮抗し、「反対・どちらかというと反対」が「賛成」よりやや多い結果となった。
- ・ 未就学児の回答は、(③学区全体)及び(④高橋東一区・東二区)ともに、「賛成」の回答がおよそ7割であった。

(4)「通学先の変更方法の具体策案」についての意見

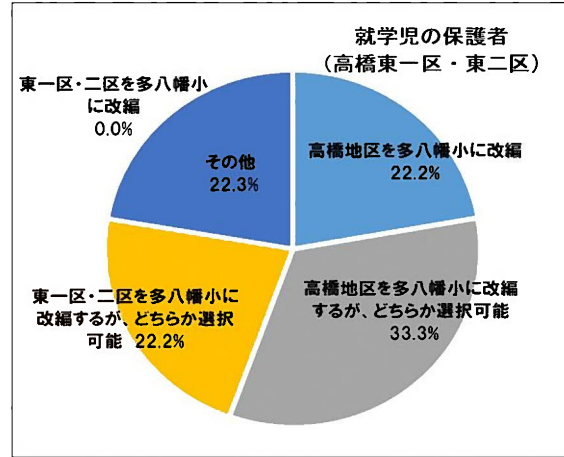
(※(3)で「賛成・どちらか」というと賛成」を選択した者のみ回答)

回答率49.5% (164人/331人)

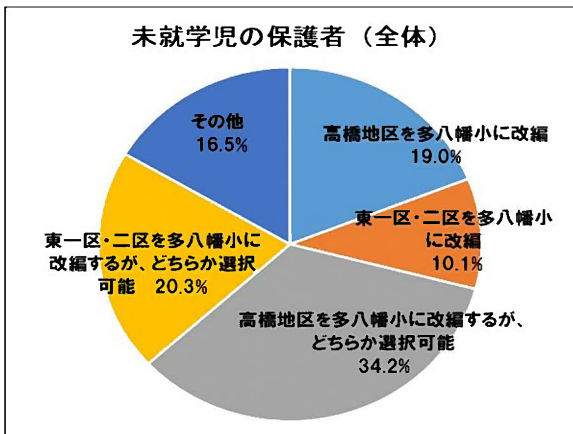
①就学児（学区全体）



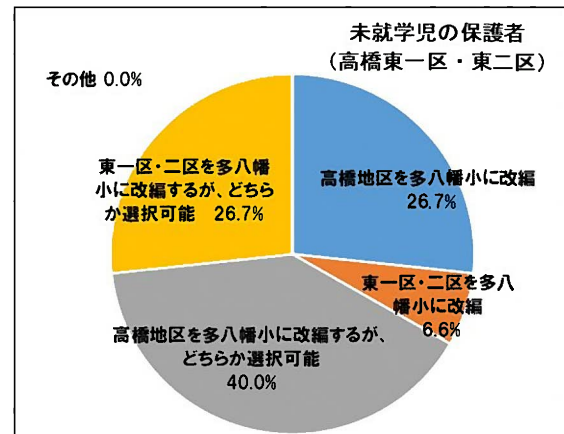
②就学児（高橋東一区・東二区）



③未就学児（学区全体）



④未就学児（高橋東一区・東二区）



(4)の結果概要

「学区改編に当たっての具体策案」について

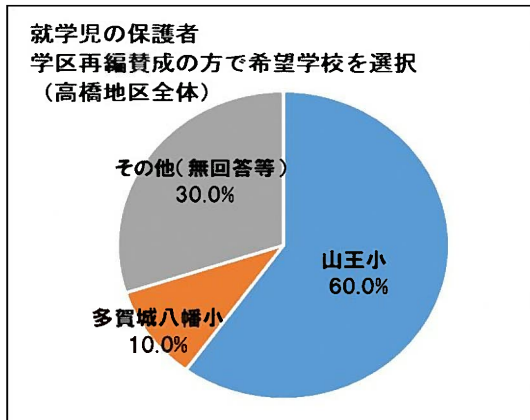
- ・学区改編をする場合の具体策については、「高橋地区を多賀城八幡小に改編するがどちらか選択可能」又は「東一区・東二区を多賀城八幡小に改編するがどちらか選択可能」とする条件付きの改編案を選ぶ保護者が就学児及び未就学児とも5割以上となり、未就学児（④高橋東一区・東二区）が最多となった。
- ・就学児（①学区全体）では、「高橋地区を多賀城八幡小に改編するが、どちらか選択可能とする」意見が4割で最多。就学児（②高橋東一区・東二区）も同意見が最多であった。
- ・就学児（②高橋東一区・東二区）では、「東一区・東二区を多賀城八幡小に改編」（条件なし）を選択する保護者はいなかった。

(5) 山王小と多賀城八幡小のどちらに通学を希望するか

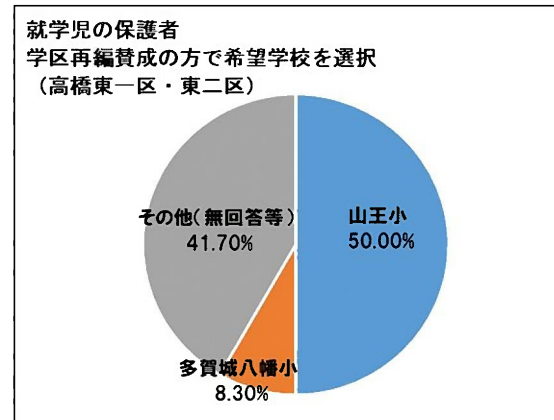
(※高橋地区在住者のうち、(4)で「希望に応じてどちらか選択可能」を選択した者のみ回答)

回答率54.7% (52人/95人)

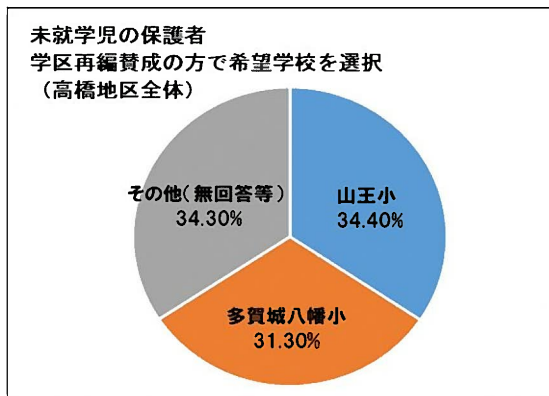
①就学児(高橋四区全体)



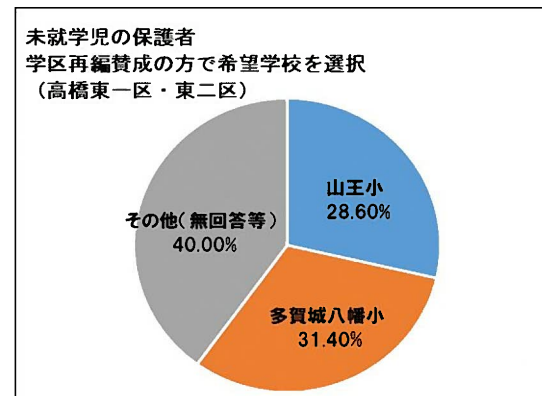
②就学児(高橋東一区・東二区)



③未就学児(高橋四区全体)



④未就学児(高橋東一区・東二区)



(5) の結果概要

『山王小と多賀城八幡小のどちらに通学を希望するか』について

- ・ 就学児の(①高橋四区全体)及び(②高橋東一区・東二区)ともに、5割から6割の者が山王小を選択した。
- ・ 未就学児(③高橋四区)は、回答サンプル数が少ないものの両校ほぼ同数
- ・ 未就学児(④高橋東一区・東二区)も、両校ほぼ同数

保護者アンケート結果概要及び分析

1 通学区域の改編について

就学児は、学区全体では6割程度が賛成、高橋東一区・二区では、賛成、反対とも3割程度と意見が割れた。一方、未就学児では、学区全体、高橋東一区・東二区とも、7割以上が賛成であった。

この結果から、就学児の保護者は、児童数の増加やそれに伴う学校環境の悪化などに不安があり、そうした問題を解消するためには学区の改編はやむを得ないものと捉えていることが考えられる。一方で、高橋東一区・東二区の保護者は、当該区域が多賀城八幡小学校区の境界に隣接しており、通学区域改編の対象となる可能性が高いことから、通学区域の改編による転校の可能性を自分ごととして捉え、我が子への影響を考慮した結果賛否が割れたものと思われる。

また、未就学児は、小学校に入学していないため、通学区域の改編について比較的柔軟な考え方を持っている保護者が多いものと思われる。

2 高橋地区の通学先を多賀城八幡小学校に変更することについて

就学児は、学区全体では保護者の6割程度が賛成、高橋東一区・東二区では賛成・反対とも4割程度と意見が割れたが、反対意見が賛成意見をやや上回る結果となった。未就学児は、学区全体、高橋東一区・東二区とも約7割の保護者が賛成であった。

この結果から、就学児の高橋東一区・東二区の保護者は、通学先が変わることで、生じる子どもたちの急激な環境変化に対する受けとめ方が保護者ごとに異なるものと感じられ、特に就学児の通学先変更を行うかどうかについては慎重に進める必要があるものと思われる。

また、未就学児は、小学校に入学していないため、今後入学予定の小学校が変わることについて、それほど抵抗感がない保護者が多いものと思われる。

3 通学先の変更方法の具体策案及び通学先の希望について

就学児及び未就学児、居住地区を問わず、高橋地区又は高橋東一区・東二区を多賀城八幡小学校を通学区域とするが、希望に応じて学校選択できるとする条件付きの案を選択する保護者が多かった。

また、高橋地区在住者のうち、「希望に応じて学校選択できる」を選択した保護者の中で多賀城八幡小学校への就学を希望する者は、就学児では1割程度、未就学児では3割程度となった。一方、山王小学校への就学を希望する者は、就学児は約6割、未就学児は3～4割程度となった。

この結果から、就学児は、既に山王小学校で築いている人間関係や慣れた環境を極力変えたくないなど、特に高橋東一区・東二区の保護者は多賀城八幡小学校への転校を望んでいないと思われる。一方、未就学児については、入学前の学校変更にならざるに抵抗感はなく、自宅から学校までの通学距離や通学路の安全性を重視して就学先を決定したいと感じている保護者も一定数いるものと思われる。